

課題名

(2) ビワ施設栽培での果実発育初期と肥大期の気温と果実肥大について

成果の要約

果実肥大期に気温が高いと収穫時の果実の縦径、横径は小さくなった。

成績

3年生の茂木種のコンテナ(40×60cm)植え樹を用い、12月10日、20日、30日開花の花房を設けた。果実は横径約1cmの時に1果房当たり3果に摘果した。気温の異なる温室I、温室IIで果実発育初期(12月20日~2月6日)、果実肥大期(2月6日以降)の気温の変化を組合せ、果実の縦、横径を2月8日から成熟時まで10日おきに測定した。

1) 温室Iと温室IIでは、昼温は温室Iが全期間をとおして高く推移した。その違いは1月中旬から2月までと4月下旬で大きかった。夜温は温室Iがやや高く、2月6日から4月までは2~3℃高く推移した。

2) 12月10日開花の果実では果実の縦径は肥大期に気温の低い温室IIで大きい傾向にあった。特に、果実発育初期に気温の高い温室Iにおき肥大期には気温の低い温室IIにおいた果実の縦径は大きかった。横径は、全期間にわたって、気温の高い温室Iにおかれた果実でやや小さかった。

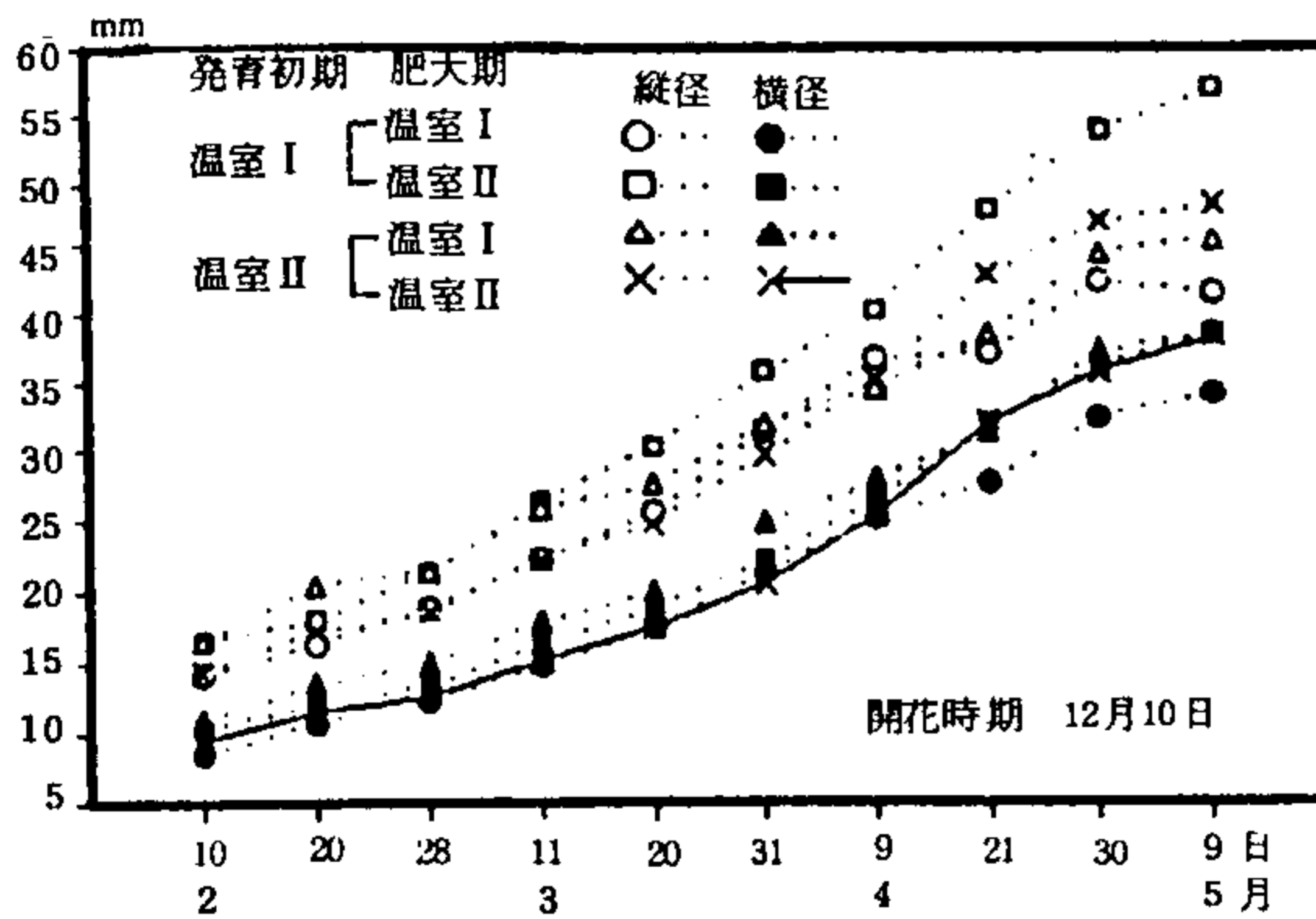
3) 12月20日開花の果実でもほぼ同じ様な傾向であった。

4) 12月30日開花の果実では温室Iから温室IIに移した果実の縦径がやや大きいだけで、気温による果実肥大の違いは小さくなった。

概

要

要



第1図 果実発育初期と肥大期の気温と果実肥大(61年)